



アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館館長)が、
その魅力をソンコ(=お便り)形式で
語り合います。
イラスト/安田千夏

アイヌイタク (アイヌ語)



このコーナーも3回目。そろそろアイヌ語について書くのかな。

じゃ、のつけから質問ね。「猫は魚を食べる」は日本語では「猫・魚・食べる」という語順。でも英語では、猫・食べる・魚という語順になります。じゃ、アイヌ語は日本語式？それとも英語式？——答えは、チャベ(猫)チエブ(魚)エ(く)を食べる)。つまり日本語と同じです。でも、「な〜んだ、簡単」なんて甘く考えると事故のモト。

例えば「うさぎは魚を食べない」という日本語の否定文は、食べるくはないというように、動詞の後に打ち消しの言葉がきますが、アイヌ語では、ソモ(くない)エ(く)を食べる)となり、動詞の前に打ち消しの言葉がきます。こ

ちらはなんだか英語に似ています。

このように、語順一つとっても、アイヌ語と日本語は全然別の言葉です。

ちなみに、「私は優子です」は、アイヌ語で「ユウコ クネ」。クは「私」、ネは「くだ」という意味です。昔、メールアドレスを「yuko.yko」に変更した時、私の知らないところで「本田優子は結婚して久根優子になったららしい」という噂がバツと広まったんですって(笑)！でも、これが「am yuko」なら、誰もそんな勘違いはしないよね。

アイヌ語は北海道の大地から生まれた言葉。道民なら誰でも「クネ」の意味くらい知ってる——そんな日が早く来ますように！

美幸さんのアイヌ語エピソードは？



いや〜、優子先生のアイヌ語教室、思い出しますね。疑問文に否定文、名詞に動詞に人称接辞：と、文法が苦手な私は出来の悪い生徒でした。中でも、会話練習は恥ずかしかった。使い慣れない

言葉を話すのは、学校の英語もそうだったけど、なんだか照れくさい。特に、母音のつかない音の発音やアクセント。自信が無いから、ぼそと口ごもってたよね。

楽しかったのはアイヌ語カルタ。同じ音ではじまる名詞や動詞などを組み合わせた手作りカルタで、子供たちが書いたイラストはどれもインパクトがあって独創的。「ウナラベ・ウコイキ(おばさん・喧嘩する)」、「マッカチマ(女の子・泳ぐ)」など、今でも頭の中でカルタの絵と単語がリンクしてるの。

そんなアイヌ語が苦手な私ですが、二十五年も前の若かりし頃、無謀にもアイヌ語弁論大会に出たことがあるんだよね。

惜しくも？入賞こそがしましたが、その時に丸暗記したアイヌ語は、今でも役立つてます。毎年、アイヌ語弁論大会「イタカンローアイヌ語で話しましょう！」が開かれているので、皆さんも今から準備をして挑戦してみてください！

「ヤクサクノリクンカントオロワアランケブシネブカイサム(役目無しに天から降ろされたものはひとつも無い)」。アイヌの精神世界を感じられる、好きなアイヌ語。みんなも覚えてみてね。



■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌの子供達へのアイヌ語教育に携わる。

■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。(財)アイヌ民族博物館館長。先住民族アイヌの一員として、アイヌ文化伝承と普及啓発活動に努める。